

受理第2-4号

請 願 書

件 名

教育格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求め
る請願

紹介議員

徳永 未来、宮本 繁夫、山崎 恭一、坂本 優子、

山崎 匡、大河 直幸、佐々木 真由美

請願趣旨

すべての子どもたちに豊かな教育を保障するためには、教育条件の向上は切実な要求です。新型コロナウイルスの感染拡大で3月から5月まで休校措置がとられました。6月に再開してからは、消毒や検温、手洗いの徹底などの感染症予防対策をとりながらの学校生活を送っています。多くの行事や学習活動が制限される中、休校措置の遅れを取り戻すための密な学習が進められ、子どもたちに大きな負担を与えています。不登校や、登校渋りも目立つようになりました。今、子どもたち一人ひとりに目を向け、寄り添うことが求められています。

「児童・生徒一人一人に寄り添うこと」
「個に応じたきめ細かな学習指導」
「感染拡大防止」

これらの観点から、少人数学級の早期実現を要望します。

請願事項

1. 国や京都府に対して、安心・安全な少人数学級を早期に実現するように求めて下さい。
2. 宇治市の小中学校において、すみやかに1学級35人以下を実現して下さい。

2020年12月25日

宇治市議会議長
真田 敦史 様

請願者

住所

学校教育の充実を求める会

氏名 代表 吉田 省工 他署名 1402 名